

# 目黒寄生虫館月報

昭和34年11月10日発行・毎月1回10日発行

第9号

昭和34年11月

## 無償の行為

国井長次郎

台風のすぎた翌日は、美しく晴れ上った秋の日和だったので、私は妻と二人でちかくの雑司ヶ谷墓地を散歩した。私たちの行く先に一人の品の良い老人が、ワイシャツ一枚で立ち働いている。台風で折れ、道をふさいだ釋の枝を、彼はとりかたづけているのだ。傍らに上着とステッキが置いてあったからやっぱり散歩の人であろう。

私が近づいて会釈すると、彼は笑いながら「ここは子供たちの良い遊び場なんです。ね。枝があっては邪魔でしょうから」

と、事もなげにいった。私はその時、一寸感動して心が洗われたような気がした。

私はいまこの文章を書きながら、この場面を思いだした。それはなぜだかわからない。

たぶん「無償の行為」というコトバをおもいだしたからかも知れない。

亀谷さんが目黒に寄生虫館を設立するという話を聞いたのはもう四五年前のことだ。その時、私は世の中にはきとく（奇特）な方もあるものと思った。その後森下博士や小宮博士からその成長の様子をうかがって、これはますます本物だと思うようになった。亀谷さんの建設記を読んで私の思いは感動に変わっていった。

世の中のずっと奥の方において、そして実際に世の中を「良いな」と思わせてくれるのは、こういう人々の善意と情熱なのかも知れない。私は目黒寄生虫館についてもこの感を深くしている。（東京寄生虫予防協会専務理事）

**Dr. IBRAHIM 来館**

10月1日安田理事(アジア文化財団副代理)の紹介で東パキスタン Dacca Medical College の教授 Dr. IBRAHIM 来館, 館内陳列標本などを参観された。同氏はパキスタン首相の主治医であり寄生虫に関しても興味を持っておられる。

**吉田貞雄博士から人体寄生虫標本を寄贈**

10月4日同博士指導日本医学標本 KK 製作の人体寄生虫標本懸額の寄贈を受け早速陳列室に飾り一般の参観に供することにした。

**都立大岡田豊日博士参観**

10月8日都立大生物学教室岡田助教授は黒川助手と共に男女学生 13 名を引率見学された。

**南極観測隊へ採集依頼**

10月14日南極観測隊山形貞勝氏に資材を托し標本蒐集をお願いした。

**海外在勤者旅行者へ採集お願い**

プエノスアイレスの宮島夫人から好意あるお申越により蠅の採集をお願いした。又アメリカ旅行中の水田重一氏からシカゴ及びデトロイトで蠅を採集されたとの報告を受けた。

**新潟県寄生虫予防会永橋氏来館**

10月24日永橋忠彦氏及び助手近藤氏来館, 同地方の寄生虫に関して面白いお話を伺った。

**北大山下教授大林助教授来訪**

10月25日北大山下教授, 大林助教授が上京され礼文島のお話を面白く伺ったがご多忙のため数多くの標本は観ていただく暇がなかった。

**宮崎大永田教授来館**

10月27日, 28日宮崎大農学部永田教授は陳列標本を仔細に見学され有益なご注意があった。

**静大伊藤教授来訪**

10月29日静大保健衛生学伊藤教授来訪 Cercaria 外 1 点の文献をいただき又色々興味あるお話を伺った。

**標本, 文献の贈答**

広島市松田鎮雄博士から…学童の蛭虫症の実態 6 篇  
吉田貞雄博士から……………人体寄生虫標本  
小倉暁雄君から……………ヤマカガシ, ムカデ 2 種  
水産大桑原連氏から……………標本 2 及び Protozoology

by Richard Kuroda 写本

秋田市沓沢貫之博士から…文献 3 篇

日本寄生虫学会へ当館関係者文献寄附

鳥取大岡本教授……………ブユに関する文献 6 篇

唐津梅田キクヨ氏……………猫の条虫

北大大林助教授……………*Linguatula serrata* など  
lich 1989 外

静大生物学教室……………モンシロチョウの心搏に及ぼすアオムシコマユバチの寄生の影響

順天大原淳教授……………ゴキブリ対策について外 9 篇

予研岡見吉郎氏から……………Warszawa Jnotytut Anthybiologykow 来状写

静大伊藤教授から……………Iwo Cystophororrss Cercaria 外 21 篇

**生物学同好会**

10月29日下目黒小学校で福井王夫博士が動物分類学「棘皮動物, 原索動物, 脊椎動物」を講義された。なお今回で福井博士の動物分類学は全部終了した。次回からは教育大杉靖三郎博士が「生理学」の講義をされる予定。

**短 信**

9. 27……目黒区こども広報に当館事業及び特別展示紹介の記事が掲載され区内小学児童全部に配布された

9. 28……毎日新聞城南版南風欄に特別展示「ボチは狙われている」の紹介があった

10. 28……福岡市古賀胃腸病院院長古賀之晃氏来訪ちょうどおられた宮崎大永田教授と共に九州におけるお話を聞かせていただいた

10. 30……研究員木原緑第19回日本寄生虫学会東日本支部大会に出席 *Centrorhynchus elongatus* Yamaguti について演説

## ON SOME ACANTHOCEPHALA FOUND IN MARINE FISHES (3)

MIDORI KIHARA

*Arhythmacanthus fusitormis* YAMAGUTI, 1935 (Fig. 5-6)

**male.** A single specimen was found from the intestine of *Spheroides niphobles* JORDAN et SNYDER. Unfortunately gravid female could not be obtained, so that the following description is based on male only.

The spindle shaped body is 4.8 mm in length and 2.1 mm in maximum width at about the middle part. The proboscis is globular in shape, 0.3 mm long by 0.4 mm wide, therefore slightly broader than the length. It bears three different sets of hooks; at the anterior cirlet, there are 11 smallish hooks. The largest middle hooks in two alternate rows of 8 hooks each, pronouncedly recurve to the root. The basal cirlet consists of 16 longitudinal rows of 3 small hooks each. The neck is very short and not armed with spines. Trunk is covered with a very thick hypodermis and its anterior half is also covered with numerous fine spines. Proboscis receptacle is fairly shorter than the lemnisci, 0.6 mm long and 0.3 mm wide. The two lemnisci are long, cylindrical or somewhat clubshaped. Testes oval, they are arranged obliquely and eontiguously with each other. The 6 pyriform cement glands are slightly overlapping the testes. The genital pore is exactly terminal.

Habitat: Intestine of *Spheroides niphobles* JORDAN et SNYDER

Locality: Kannonzaki, Kanagawa Pref.

Date: August 1, 1957.

*Rhadinorhynchus selkirki* VAN CLEAVE, 1920 (Fig. 7-8)

**male.** a single male was found in the small intestine of *Cololabis saira* (BREVOORT). The almost cylindrical trunk, 8.8 mm long and 1.6 mm wide, it has a fairly thick hypodermis containing numerous scattered nuclei. The club-shaped proboscis, 0.7 mm long by 0.1 mm broad, at maximum bears 12 longitudinal rows of 10 hooks each in my specimen. The double walled proboscis receptacle is finger-like, 2.2 mm long and 0.3 mm wide, the cephalic ganglion lies at the base of it. Lemnisci are club-shaped and a little shorter than the proboscis receptacle. Testes ellipsoidal, the anterior testis 1.1 mm long by 0.8 mm broad, the posterior one 1.0 mm long by 0.8 mm broad, lie directly tandem. Cement glands are cylindrical and 4 in number, some of them slightly overlapping the posterior testis. The Säftigen's pouch is 0.9 mm long by 0.5 mm broad. The muscular bursa cap has on its inner surface numerous papillae.

Habitat: Intestine of *Cololabis saira* (BREVOORT)

Locality: Setagaya fish market, Tokyo.

Date: August, 29, 1957.

## ニューオルリンズ通信① 大島智夫

早速にお便りを有難うございました。羽田から一足とびに当ニューオルリンズに参りましたので、昔の船旅と異なり適応の準備期間がなくすべての事が目新しく戸まどいする事も多いのですが当チュレン大学医学部の熱帯病寄生虫病の研究部は既に宮崎教授、松林教授が長期に滞在され岡部、佐々両教授も旅行の途次に訪問されたところで、日本の寄生虫学者に対して極めて暖かい親愛の情を示してくれますので小生の異国に突然と参りました不安、孤独感というものは大半解消し極めてアトホームな感じを持つ事が出来ます。

只今 Beaver 教授が側にこられました。何を書いているかと云われるので「故国にこの教室の第一印象を書いている、そしてこれを多くの寄生虫に関心を持つ方が読むだろう」と申しましたら「それならこの教室では皆が研究で crazy になっていて中を走り廻って

いる。教室がせまくて困っている」と書けとじょうだんを云われました。

それほど Beaver 教授を筆頭に 20 名の教室のスタッフは一名の怠ける者もなく朝 8 時から夜遅くまで休日である土曜も出勤して研究に励んでおりその雰囲気は羨む可きものがあります。日本ではあの思むべき学位制度のためどれ程研究室の雰囲気が乱れているか悲しむべきものがあります。

もう一つ感心する事は極めて広い視野と関心を持っている事でこの期間は犬回虫の仕事をする、それがすむと次は犬の糸状虫の仕事、それがすんだらアメーバ赤痢と一人の研究テーマは次々と極めて広い範囲に変わり日本のように早くから原虫学者、昆虫学者と分かれてしまわない事です。これによって他人の仕事に興味を持ち又突然はいる貴重な研究材料に対してもただちに即応した研究体制がとれるようになるのだと思います。(次ページへ)

今日も教室の conference で北大の山下教授のエキノコッカスの論文がとりあげられました。当教室で今はとりあげていないテーマですが討論は実に熱心でかつ知識は正確であります。こう云う所は今後の日本の寄生虫学者を育てるに一番重要な点でしょう。まずは第一報まで。十月末インディアナポリスで熱帯病学会がありますのでついでにシカゴに参りたいと思います。(9.30)

### ニューオルリンズ通信② 大島智夫

南国の当地でも昨日今日はさすがに秋の訪れの涼気を感じるようになり夜も窓や戸を閉めるようになりましたがまだまだ昼間の研究室ではエアコンディション(冷房)をやめません。

今日は少し私がまだまだ少い滞在日数ですがこの間に経験した日本および日本の寄生虫学が当地でどう思われているかをお伝えしたいと思います。

日本に対しては英国でよく聞くような冷たい反日感情など勿論ありませんがまあ無関心から多少好意的な感情を持っているというのが一般の人の感じのようで殊に日本に駐留した軍関係の人が好印象を持って帰っている(当地には殊に日本にいった軍人が多いようです)そういう人はよくお世辞をいいます。まあ悪印象を受けて帰る筈もないのですが。

又当地はラテンアメリカ南米への門戸ですので多数のアルゼンチン、ブラジル等の南米の人が多く、ことに当大学には熱帯病を修めにスペインなまりの英語をしゃべるこれらの地方の学生が多く、彼等は自国で日本の移民の勤勉な様を見て知っているので私などに対しても「昨年はプリンスミカサが来た」だの「ブラジルの最高裁の判事に日本の某氏がいるが非常に立派な人だ」など話しかけてきます。外国人に対して何とかその人の国をはめるのが礼儀なのでしょうから外交辞令半分としても明らかに反感を示されるような事がなく大変幸と存じます。

さて Beaver 教授の教室内では既に日本の一流の寄生虫学者であられる宮崎、松林、佐々、岡部教授が残された印象と相まって日本の寄生虫学に対しては相当の高い評価を払っておられるように思います。少くとも他の分野の方々が外国に行くと日本の英文雑誌などは埃をかぶって見る人もないによく歎かれますがそのような無関心は全くありません。日本寄生虫学雑誌は毎号目を通されていますし、時々教員室の人は全く英文のない邦文論文をもってきて要旨を聞きにこられます。当教室で日本の論文の説明を求められたのはもう数回にとどまりません。熱心な方は小生のたどたどしい英語を横で書きとられて2時間でも3時間でもねばられます。

ここで日本人として強く思う事は彼等に日本語を説

めるようにする事は少くとも不可能ですから彼等が知りたいと強い意向を持っている日本の論文は少くも我々の方から少し近づけてやらねばならぬ義務があるように思います。寄生虫学雑誌は教室の書棚にならんでいます。

いずれも英文の抄録がのっていますがかかには判読のできない英文があるそうです。又 Beaver 教授もせめて表図等の説明を全部英文にしてくれたらどの位理解を助けるかわからないと申されています。彼等は抄録だけでは満足しないので、私からいわせればできれば英文の abstract の量をふやしその中に実験方法実験材料を省略せずに相手が利用できるように説明しておく必要があります。

英文はこれは伊達につけるのでなくやはりこれを読んで利用する人がいるのですから相手の身になってつける必要があると思います。

私は日本の英文雑誌ですら外国で顧みられないのに日本寄生虫学雑誌は邦文雑誌で英文抄録だけであるのにこのように利用されている事を知って誇りに思う次第です。我々はもっともこの雑誌の内容を高める必要があります。Beaver 教授は私を呼んでこの表のこの字は何だと聞かれました。見ると室温という漢字です。「room temperature です」と答えると「26~27°C かな」といわれる。よく論文を読んで探して見ると室温(15°C)と書いてあるので「15°Cです」と答えますととび上らなければならぬ、そういえば私があなたの研究所にいったとき Dr. Yokogawa と君はジャケットを着てこんなかっこうをしていたな」と背中をすくめて見せました。もっとも横川先生も私も少し猫背なのですが。つまりこれだけの説明を必要とするのです。我々の仕事を少くもこの Beaver 教授の教室の方々に知っていただくために室温を room temperature と書きそれが 15°C であることを判るようにしておいてあげたいものです。これは卑屈な態度でなく service であると思うのですが。以上 (10.17)

(公衆衛生院、医博)

### 特別展示・第5回

11・12月『ぎょう虫のいたずら』

最近都市においても関心がたかまってきたぎょう虫について、色々な角度から解説を加えてみました。特に幼稚園や小学校の皆さんには役にたつと思います。

同時に動物のめずらしいぎょう虫も多数展示します。